

# CASBEE神戸ver.3

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 建築（新築）2016年版（使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-8D\_NC\_2016(v3.0)）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ニトリ神戸DC 新築工事	階数	地上8F
建設地	兵庫県神戸市中央区港島4丁目7番	構造	S造
用途地域	市街化区域,神戸港臨港地区	平均居住人員	1,200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2022年10月23日
敷地面積	32,240 m <sup>2</sup>	作成者	ゼ・アーキテクト・パートナーズ 高木 雅史
建築面積	22,245 m <sup>2</sup>	確認日	2022年10月24日
延床面積	81,263 m <sup>2</sup>	確認者	ゼ・アーキテクト・パートナーズ 高木 雅史



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** **Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.0

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 CASBEE神戸 の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 1.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.2 Q-2/2.4 信頼性 3.2	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 2.0
配慮の概要 その他の配慮事項	配慮の概要 空調機器や換気機器にスプリング防振架台、防振ゴム、防振吊金物を採用	配慮の概要

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**(仮称)ニトリ神戸DC 新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.6	
Q1 室内環境			0.30		-		2.8		
1 音環境		3.4	0.15		-		3.4		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40		-				
1.2 遮音		4.2	0.40		-				
1 開口部遮音性能	開口遮音性能:T-2	5.0	0.60		-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40		-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-				
1.3 吸音		3.0	0.20		-				
2 温熱環境		1.8	0.35		-		1.8		
2.1 室温制御		2.7	0.50		-				
1 室温		3.0	0.38		-				
2 外皮性能		2.0	0.25		-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20		-				
2.3 空調方式		1.0	0.30		-				
3 光・視環境		2.8	0.25		-		2.8		
3.1 屋光利用		2.4	0.30		-				
1 屋光率		2.0	0.60		-				
2 方位別開口			-		-				
3 屋光利用設備		3.0	0.40		-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30		-				
1 屋光制御		3.0	1.00		-				
3.3 照度		3.0	0.15		-				
3.4 照明制御		3.0	0.25		-				
4 空気質環境		3.7	0.25		-		3.7		
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-				
1 化学汚染物質	内装材は全面的にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00		-				
4.2 換気		3.6	0.30		-				
1 換気量	必要換気量×1.2≤設計換気量	4.0	0.33		-				
2 自然換気性能	居室面積の1/30以上の自然換気有効開口面積を確保	4.0	0.33		-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-				
4.3 運用管理		3.0	0.20		-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-		-				
2 喫煙の制御		3.0	1.00		-				
Q2 サービス性能		-	0.30		-		3.2		
1 機能性		2.6	0.40		-		2.6		
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40		-				
1 広さ・収納性		1.0	0.33		-				
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33		-				
3 バリアフリー計画		1.0	0.33		-				
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30		-				
1 広さ感・景観		3.0	0.33		-				
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上+自動販売機の設置	5.0	0.33		-				
3 内装計画		1.0	0.33		-				
1.3 維持管理		4.5	0.30		-				
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い建材を採用等	5.0	0.50		-				
2 維持管理用機能の確保	維持管理機能の確保に対する取組み	4.0	0.50		-				
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30		-		3.2		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.2	0.50		-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-				
2 免震・制震・制振性能	スプリング防振架台、防振ゴム、防振吊金物の採用	4.0	0.20		-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.30		-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20		-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房排気ダクトにガルバリウムダクトを採用	4.0	0.10		-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要用途上位3種の2種以上にB以上を使用、Eは不使用	5.0	0.20		-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-				
2.4 信頼性		3.2	0.20		-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-				
3 電気設備	自家発電、無停電電源設備を設置、精密機械をGL+4000に設置し浸水を避けている	4.0	0.20		-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-				
5 通信・情報設備		3.0	0.20		-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.2</b>	0.30	-	-	<b>4.2</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		積載荷重4500N/㎡以上	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.78	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.41	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.5</b>	0.20	-	-	<b>2.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水		省水型便器、自動水栓、節水コマが過半を満たす	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ソーラト(天井)/押出法ポリスチレンフォーム(断熱材)/再生クッション(路盤)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		解体時に容易に分別可能な工法、再利用可能なユニット部材の採用	5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用		防水工事のプライマー	<b>4.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率=70%	<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐輪駐車場、荷捌き用車両の駐車スペース、複数出入口を確保	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			1.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	